慎み敬って拝読し奉る、元祖法然上人御法語にのたまわく

「当時日ごとのお念仏をも、かつかつ回向しまいらせられ候べし」と、十念。

このお言葉は法然上人が、ある人から往生する為に心がけねば成らぬことを問われたお答えの一部です。自らの、往生の為にお念仏を励み又、先立った人の為に、日々お称えしているお念仏の功徳を廻し向けることを勧めておられます。この世において、一言のお念仏を称える事無く亡くなって、地獄に落ちている人でも、私達がお称えするお念仏をその方に廻し向ければ、地獄の苦しみが休まってやがて地獄から解き放たれる事が出来ると言葉は続いております。ましてお浄土にて、阿弥陀様のみもとでご修行しておられる方には心強い励みともなります。

お念仏は阿弥陀仏の誓いを信じてその名を称えれば必ず阿弥陀様の御国、西方の極楽浄土に往生することができると言う有り難い修行です。その有り難い修行を自分の為ではなく先立った人の為に振り向けるというのが「回向」すると言うことです。

例えば、八十八の手間を掛けて、一年がかりで作ったお米の一粒をも自分の物にすることなく、他の人のためにすべて差し出す行為。これが功徳を振り向ける回向ということです。

　本来のお念仏は自分自身の往生のためですが、ほとんどの場合お念仏や法要を自分の修行の為と思ってなさっておられる方は少ないようです。お念仏やお勤めは自分のためではなく、先立った方の供養のためだけに行なうものだと思ってらっしゃる。

　私が、散髪に行く床屋のマスターは由美さんという名の娘さんを突然亡くされました。小学校四年の男の子と二年生の女の子を残して二十八歳の若さでした。もともと、仏教というものに興味があったマスターは由美さんを突然亡くしたことによって、より仏教を知ろうとしていました。ご縁があって、浄土宗のお寺の檀家となり床屋の定休日の月曜日には毎週朝勤行に参加していました。

毎朝の、墓参りは三回忌を過ぎても欠かしたことがありません。朝のお勤めが済むとご住職が時々お話をしてくださり、それが楽しみでもあるそうです。そして、ご住職のお話の中で、解らないことがあると私が頭を刈ってもらいに行った時に質問するのです。マスターは菩提寺のご住職を尊敬していて質問など出来ないといいます。その点稲岡さんならいつもバカ話してるから何でも聞きやすいと言うのです。むっとしながら、

「解らないって何がよ」

と聞くと、

ご住職は、お勤めしたりお念仏したりする事はご自分の修行になることだ。修行は自分のためにすることだとおっしゃった。けれど、俺は朝お勤めしたり、墓参りしたりお念仏称えたりしてるのは自分のためではなく、娘のためにやってることなんだ。そのつもりでいるのに修行は自分自身のためだと言われたら、娘にどうしてやったらいいのか解らないというのです。

何時しかマスターはカミソリをもった手を震わせながら涙目になっていました。身の危険を感じた私はわざと明るく、

「それで、いいんだよマスター」

と言いました。そして、

「ご住職のおっしゃる通りお勤めや、お念仏を称えるのは自分のために違いないよ。だけど、朝お勤めする時、ご住職は由美さんのお戒名をお称えするところない？」

と聞くと、

「ある。」

といいます。そして、回向し奉るっておっしゃらない。と聞くと回向って云ってるの聞くっていいます。

「お経を読んだり、お念仏お称えしたりする事はあくまでも、自分自身が阿弥陀様の御国西方の極楽浄土に往生したいからだよ。けれど、マスターがお念仏なんか称えたことも無かった由美さんの為に、自分がお念仏を称えてそれをすべて由美さんのために振り向ける事を、回向と言ってるの。ご住職はマスターの修行もご住職自身のご修行もすべて由美さんのために廻し向けて下さってるのだから、それでいいんだよ。由美さんのためになってるの。けどね、マスター、由美さんのためにお念仏称えてるけど自分自身の往生のためには称えてるの？」

って聞くと、

「いいや」と首を横に振ります。娘可愛さ、不憫さで娘のためには朝のお勤めもお念仏も苦にはならないけど、いざ自分の事となると気は抜けてしまうようです。

「じゃあ、マスター往生出来るかどうかわかんないよ。由美さんは阿弥陀様の処に居るけど、そこに行かなくていいの？」

ってきくと

「同じところに行けないと困る」

といいます。

「じゃあ、自分の往生の為にもお念仏称えなくちゃあ」

と言うと、

「そいじゃあ、由美のためにも自分のためにもなら、ずっとお念仏称えていないといけないじゃあない」

「そうだよ。浄土宗をお開きになった法然上人はそうおっしゃってるもん。仕事をしながらお念仏を称えるのではなく、お念仏を称えながら仕事をしなさいって」

「そうか、だから何回もお念仏称えなきゃならないのか」

マスターはこれからは、自分のためにもお念仏を称えると張り切っていました。

　皆さんはいかがですか。ご自分のためにお念仏称えておられますか。自らの往生のためより先立った方達のためのお念仏が主となっているのが現実ですが、それは主客転倒。まず、自分自身が阿弥陀様のみ国に往生できるかどうかが大切な問題です。先立ったお方は阿弥陀様のみ国西方の極楽浄土におられます。同じく阿弥陀様のみ国に往きたいと考えるなら、それを願ってお念仏を称えるべきです。

「私の供養より、あなたが此処にこれるかどうかが大問題」亡き人のためのみでなく、ご自分のためにもお念仏お称え下さい。